

豊岡市における相対的貧困率の算出について(要旨)

1. 今回の調査の意義

- ① 2018年5月に公表した「市民経済研究」では、豊岡市民の個人ベースでの所得は相当低いことがわかった。豊岡市は全国平均に比べて3世代世帯が多いことから、家庭を形成することで低い個人所得を支え合っているということが推測された。
- ② 実際に家計が営まれているのは世帯単位であり、一般的に世帯の所得格差の状況を見るときは相対的貧困率(1)という指標が用いられているため、豊岡市における相対的貧困率を算出し、比較を行った。
- ③ また、全国的にも子どもの貧困が課題となっていることから、子どもの貧困にも着目し、全国と比べてどのようになっているかを本市の2018年度分の市県民税課税用データを利用して調査を行った。

2. 調査の結果

- ① 豊岡市全体の相対的貧困率は全国よりわずかに低い。
豊岡市(2018年)15.2%(12,642人)、全国(2016年)15.7% (2)
()の人数は貧困線以下の世帯人員、以下の②③も同じ。
 - ② 子どもの貧困率についても、豊岡市は全国によりやや低い。
豊岡市(2018年)12.7%(1,719人)、全国(2016年)13.9%
 - ③ ひとり親世帯(子どもがいる現役世帯で大人が一人)の相対的貧困率は全国に比べて高い。
豊岡市(2018年)58.5%(1,117人)、全国(2016年)50.8%
- ・豊岡市のひとり親世帯の9割は女性世帯主である。(全国も9割が母子世帯)
 - ・豊岡市も全国もひとり親世帯で女性世帯主の貧困率は男性世帯主より高いが、豊岡市の女性世帯主の貧困率は全国より相当高い。
豊岡市男性世帯主 27.0%、豊岡市女性世帯主 62.6%
 - *研究者の調査による全国のひとり親世帯の貧困率
全国男性世帯主 25.2%、全国女性世帯主 31.5%(3)

3. まとめ

貧困は全国的にも課題となっているが、特に子どもへと貧困が連鎖すると指摘されており、子どもの貧困の状況の把握と対策が課題となっている。

今回の調査により、豊岡市の相対的貧困率、子どもの相対的貧困率とも全国よりやや低い状況にあることが分かった。だが、豊岡市のひとり親世帯の子どもについて見ると、全国と比べて相対的貧困の状況にある層がより多数存在することが明らかになった。貧困の連鎖を断ち切るためにも特に子どもの貧困に対しては何らかの対策が必要である。

【別紙】注釈

(1) 相対的貧困率

相対的貧困率とは、世帯の世帯人員を考慮して調整した手取り収入(等価可処分所得)の中央値の半分(貧困線)以下の収入しか得ていない者の割合。

○相対的貧困率の持つ意味

相対的貧困率は、所得水準の高低ではなく所得格差を見る指標。

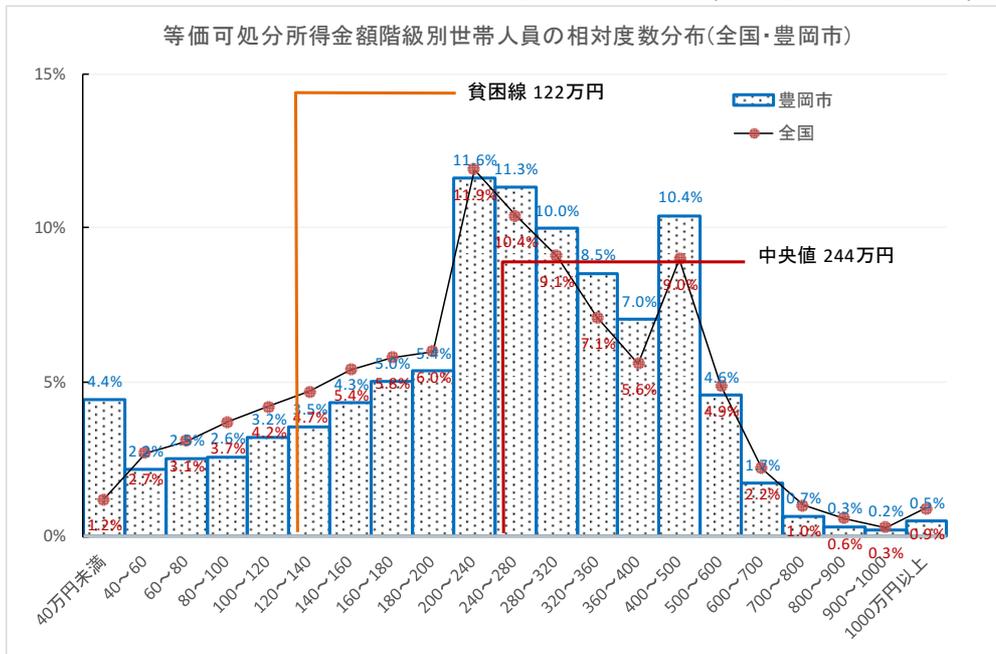
相対的貧困とは、属する社会における平均的な生活水準よりも、相対的に低い所得水準にあることをいう。

衣食住に事欠く状況(絶対的貧困)ではなくても、社会で当たり前の水準の生活を送るのに十分な所得のない状況を指す。

○貧困線

貧困線を求めるための等価可処分所得の中央値は、全国が 244 万円(貧困線は 122 万円)であり、これを利用して豊岡市の相対的貧困率を算出した。

なお、豊岡市の課税データによる中央値は 257.3 万円(貧困線は 128.7 万円)



※1 全国の値は2016年国民生活基礎調査

※2 豊岡市の値は2018年度分市県民税課税用データを使用しているため、遺族年金等、雇用保険、児童手当等、生活保護等の社会保障給付金、仕送りなどは含まれていない。

(2) 全国の相対的貧困率の人数

全国の相対的貧困率は国民生活基礎調査による。この調査は全国の世帯員 8 万人の調査であるため、全国の貧困線以下の人数はこの調査では明らかとされていない。なお、豊岡市は市県民税課税用データを利用して把握したため人数を算出している。

(3) 全国のひとり親世帯の状況

首都大学東京 阿部彩教授が全国のひとり親世帯の相対的貧困率について算出している。20 歳から 64 歳の女性(ひとり親と未婚子だけの世帯)の貧困率は 2015 年で 31.5% であり、同男性 25.2%と比較して高い。

【出典】阿部彩(2018)「日本の相対的貧困率の動態：2012 から 2015 年」科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(基盤研究(B))「貧困学」のフロンティアを構築する研究」報告書